

## 現代日本の女性の為の美青年像の追求

—オタク文化の視点から—

川崎 かなえ Kawasaki Kanae

当研究は、制作者自身の「美青年」に対する直球な興味関心と現代で流行している「かわいい」という価値観以外に目を向けたいという対抗意識から始まっている。

現代において、男性による女性像の消費は活発に行われているが、男性像についても同じ事が言えるのだろうかと考え、疑問を覚える。多くの絵画の影響もあり、女性像を描いた作品はジャンルとして確立しているが、美青年画というジャンルはそれを確立できる程の作品数がまだ存在しない。近年はBL(ボーイズラブ)が流行し、美術雑誌でも特集が組まれる程だったが、未だ「女性の視点から楽しむ美青年像」について語られる機会は少ない。その為私は、「かわいい」でも「BL」でもない「美青年」という存在の中には、今まで語られてこなかった価値観があるのではないかと考え、その中でも現代を象徴する文化の1つであり、自分の経験にフィットした漫画・アニメなどのサブカルチャーでの美青年に焦点を絞り、研究を通して明らかにする事を目的としてきた。

修士制作は、これまで制作してきたイラストレーション作品を冊子として編集したものと、美青年の定義、及びより現代に即した美青年の表現について考察した小論文と、主に論考にピックアップされた作品を中心に、その作品が研究の中でどのような表現にあたるのか、どのような過程を経て変化したのかについて記載した冊子で構成されている。双方を対応させて読む事が当修士制作の閲覧の仕方として推奨している。

当研究の意義について、まだ明らかにされていないジャンルを明確化していく事で、情報で溢れ孤独に陥りやすい現代のインターネット社会の中に、誰かの居場所を照らす事が根本にあるのではないかと考えている。

流行のコンテンツばかりが照らされている、そこに当てはまらない層にとって、今の放っておいても情報が流れてくるインターネット社会は生きにくいものとなる。当研究は、今まで明確に語られてこなかったジャンルを見出す事で、そういった自分の所在地がわからない層の居場所を開拓する行為にもなると考えている。

その為、当研究が真に届けたい先は今現在、オタク文化の中に住んでいる層だ。冊子という形態はそれを意識したものであり、オタク文化の中でも長く愛されている同人誌の形式に則ったものである。書籍の電子化が進む中でも、オタク文化の一大イベントである同人誌即売会では紙媒体の冊子が頒布され続けている。その為、当研究をまとめる形式として最善だと考えた。展示レイアウトも、同人誌即売会でのブース風景をベースに構成し、あえて展示台などは使用していない。その様なレイアウトにしたのは、作品がサブカルチャーの文脈であるという事を遵守する為、また実際に即売会に赴く層、それに対する知見を備えた層にのみ理解できる構成を作る事を目的としている。



「Pittoresque」

2020年  
デジタルイラストレーション、冊子  
CLIP STUDIO PAINT Pro、Illustrator、紙  
W: 257 × H: 182mm



1995年生まれ青森県出身、秋田公立美術大学ビジュアルアート専攻卒業。大学入学後からSNSを介したサブカルチャーの世界に興味を持ったこともあり、アニメ・漫画文化の視点における美青年像についての研究を大学院では行なった。現代で流行している「かわいい」や「BL」の文脈ではなく、あくまで「美青年そのものの像」に拘り、デジタルイラストレーションの制作を続けてきた。自分自身もゲームを中心に、サブカルチャーに浸かった所謂「オタク女性」の1人であり、その視点を生かした研究・考察を目指した。

